

知識の構造図「水害」からくらしを守る」

中心概念
(概念的知識)

地域の関係諸機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきた。また、今後想定される災害に対し、様々な備えをしている。

中心学習問題
(単元を貫く問)

「水害からわたしたちのくらしを守るために誰が、どのような取り組みをしているのだろうか。」

問い

島根県では、過去にどのような自然災害が起きているのだろうか。

浜田市ではどのような水害があったのか話し合い、学習問題をつくろう。

水害が起きたときに人々はどのようなことをしてきたのだろうか。

水害にそなえるために浜田市ではどのようなことをするのだろうか。

家庭では、自然災害にそなえてどのような取り組みをしているでしょう。

自然災害に備えて、だれがどのような取り組みをしているのかまとめよう。

思考ツールを活用し、自然災害が起きそうなときにできることを考えよう。

社会的事象
(中心学習問題)

島根県や浜田市では、過去に様々な自然災害が発生している。近年、自然災害についての情報を見たり、聞いたりする機会も多く、実際に起こったときには対策や、協力は欠かせない。

浜田市では、昭和五十八年、昭和六十三年に大きな水害が起き、家屋の倒壊や浸水など、多くの被害が出た。道路や鉄道が復旧するまで多くの時間がかかった。

浜田市では、自然災害に備えるために、島根県や、国とも協力し、対策を行っている。川の堤防、水門やダムを作り、川の氾濫を防いでいる。また、防災ハザードマップや屋外スピーカー、防災防犯メールで防災情報が伝わるようにしている。

浜田市では、自然災害が起きたときに備えて、避難場所が指定されている。また、家族や地域で協力して防災訓練・避難訓練を行ったり、災害について様々な勉強や体験ができたりするようになっていく。

家庭では、自然災害に備えて、日ごろから避難用リュックの準備や、家族で避難場所を確認することが大切である。

国、県や市、地域の人々は自然災害に対し、様々な協力をして自然災害に備えている。それらが関わり合うことで、私たちのくらしが守られている。

図式化シートを活用し、思考ツールにまとめることで、自分たちにできる対策や、自分たちに合った避難計画を考えたり、避難行動を確認したりしておくことが大切である。

報
・ 県全体の過去の災害
・ 児童の経験や情報

害
・ 浜田市の水害被害

・ 公助
・ ハザードマップ
・ 屋外スピーカー
・ 防災メール

・ 共助
・ 避難所
・ 避難訓練
・ 防災訓練

・ 自助
・ 家庭での具体的な取り組み
・ 避難用リュック

み
・ 公助、共助、自助それぞれの取り組み

る避難行動
・ 自分たちにできる避難行動

用語・語句